



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2011～12年度テーマ

プロバスだより

第190号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

編集・発行：情報委員会

2011年9月8日発行

創立 15 年余、会員の努力で培ってきた叡智を、

次のステージで躍進の糧としよう

第190回例会

日 時：平成 23 年 8 月 11 日(木) 12:30～15:00

場 所：八王子エルシィ

出席者：64 名 欠席者 7 名 出席率 90.1 %

(会員総数 71 名 休会 0 名)

1. 開会 有泉例会委員長の司会で開会

出席状況報告があった。

2. 会食

3. ハッピーコイン披露

佐々木会長よりハッピーコイン披露合計 24 件

(詳細別途掲載)

4. 佐々木会長挨拶



八王子「宇宙の学校」につきましては、これまで数次にわたり報告しましたとおり、クラブ内部で鋭意検討を進めるとともに、関係各方面とも折衝を重ねて参りましたが、このほどこれらがととのい、いよいよ実施の運びとなりました。

これに伴い、クラブ内に【支援の会】を設け、会員の皆様に財政面の支援、運営面への協力につき、特段のご配慮をお願いすることといたしました。

詳細につきましては、本日書面を各会員にお配りしましたほか、後ほど運営本部長下山邦夫会員からご説明いたしますので、ご協力のほどよろしくをお願いいたします。

夏の訪れが早かった今年も、早や立秋を迎えました。このところ会員の中で体調を損なわれる方が散見されます。お互い何があっても不思議ではない年齢ですが、季節の変わり目だけに、健康には充分留意していきたいと思っております。前述の「宇

宙の学校」運営面への協力に当たっても、それなりの体力が必要なわけですが、くれぐれもご無理なさらないようお願いいたします。

いろいろと不愉快な事柄の多い昨今、「なでしこジャパン」のサッカーW杯優勝は、久々の快挙でした。監督が佐々木さんというのも嬉しいことです。わが「なでしこプロバス」(やや Old?) は、Eleven ならぬ Fourteen ですが、負けずに元気で頑張ってもらえるものと期待しています。

8月15日は終戦記念日です。66年前、1945年のこの日、皆さんはどのようにしておられましたでしょうか。昨年の8月例会では、何人かの会員が当時の思い出を語りました。私もその一人で、前夜の空襲で逃げ回り疲れ切った体で、昭和天皇の玉音放送を聞いたこと、などをお話ししました。

戦争の悲惨さ、平和の尊さ、に改めて思いをいたしたいものです。

5. バースデー報告



8月のバースデー報告・カード贈呈。

今月は阿部和也、大高秀夫、久野久夫、佐々木正、竹内賢治、宮崎浩平、八木啓充、山下安雄の8会員に、池田ときえ会員特製のバースデーカードを贈呈。池田会員は、会員一人一人の個性にふさわしいメッセージを添えてあるそうです。

6. 幹事報告 永井幹事

①廣瀬会員がこのたび人権擁護委員を退任され、江田法務大臣、黒須八王子市長から感謝状を贈呈



されました。

②東京日野プロバスクラブが創立一周年を記念して9月15日に記念式典を行います。当クラブにも

出席の依頼が来ています。近隣のプロバスクラブとの交流を深める良い機会であります。

③11月にはいろいろと行事が多く日程をお知らせいたします。詳細は次の機会に担当より報告があります。

- ・11月10日(木) 野外研修。
- ・11月13日(日) 「宇宙の学校」教育センターで開催。
- ・11月17日(金) 全日本プロバスクラブ関東ブロック中央地区交流会が八王子エルシィで開催。
- ・11月19日(土) 20日(日) いちょうまつり参加。

7. 委員会報告

(1) 例会委員会 有泉例会委員長

出席状況報告(前記のとおり)。

(2) 情報委員会 馬場委員長



本日189号をお届けいたしました。

次に今年度の情報委員会のテーマであります当クラブのホームページのあり方について、今後アンケート等で会員のご意見をお聴きしたいので是非関心を持って頂きたいと存じます。

今までホームページでは前3号までが閲覧できましたが今度153号から最新号まで閲覧できるようになりました。

また、皆様の投稿をお待ちしています。

(3) 会員委員会 浅川委員長

特になし。

(4) 研修委員会 岩島委員長



11月10日(木)の野外研修は、①東京都水道水歴史館、②金町浄水場、③柴又帝釈天(矢切の渡し、スカイツリーは車窓より見学)

④向島百花園を予定。詳細は次の例会にて。

(5) 地域奉仕委員会 田中委員長



本日サロンについてのアンケートは20名強の会員から提出がありました。次回生涯学習サロンは前回流れた分を含め構成致します。

(6) 交流担当 山崎理事

特になし。

8. 八王子「宇宙の学校」支援の会への参加お願い

室長 下山 邦夫



宇宙の学校について現状報告とお願いをいたします。お手元の資料を参照してください。

資料“八王子「宇宙の学校」組織の構想”は、以前お配りしたものです。

東京八王子プロバスクラブ実行段階、が現時点での活動組織です。実行委員会は6月23日に発足しました。「宇宙の学校」支援の会は先程佐々木会長からお話があったようにいよいよスタートするわけです。支援の会には出来るだけ多くの会員にご入会頂きたいと願っており、出来れば全会員にお入り頂きたい。

役割は金銭的支援と知的または、労力的な人的支援があります。

金銭的支援は年に一口1,000円/年、一人2口以上、後援会個人会員になって頂くことです。1口2,000円と言っていましたが、我々にとっては同じですが、一般の市民が入りやすいようにルールが変わりました。(一口1,000円/年、2口以上)

人的支援は、運営部会に繋がっています。実際の学校開催に当たっては、学校開催日に午前11時頃から午後の開催に向けてお手伝い願いたいのです。

次は“八王子「宇宙の学校」支援の会への参加お願いの件”についてご説明します。

(1) 財政的支援にご協力いただける方、ここにあるように2口以上で後援会に入ってください。2口以上と言いましたが以上とは3口3、

000円、4口、5口、大口は全く大歓迎ですのでどしどしお願いします。別紙後援会会員登録表で登録して下さい。

(2) 労力的な支援下さる方

11月13日、12月11日、1月15日いずれも日曜日で。開催日にそこに書かれているような受付、案内、運搬などのお手伝いいただければ幸い、どの日でも結構です。今年は、都合付かない方は登録だけして頂いても結構です。

実行委員会の委員、監査、顧問、相談役の方、運営本部員となる方、いずれも支援の会の登録はして下さい。

本日または次回9月の例会に集めます。

次は“八王子「宇宙の学校」後援会”勧誘のチラシです。当クラブ役員のご労作に成るもので、今市内のいろんな方面に配られています。是非ご一読ください。その裏は後援会の規約です

最後は今年の八王子「宇宙の学校」開校から閉校までのスケジュールです。8月15日の八王子市広報で募集を開始します。往復はがきでお申し込みください。全学校経由対象全児童あてのチラシ、こども科学館ホームページ、さらには一般新聞、タウン紙等の広報が8月15日以降始まります。

以上お願いと報告を終わります。

来月例会で「支援の会申込書」「後援会会員登録票」および年会費2口以上をお願い致します。

9. 同好会報告

(1)お茶の会、ゴルフ同好会、歴史の会、写真の会、美術鑑賞の会は特になし。

(2)囲碁の会：9月7日(水)21日(水)

(3)麻雀クラブ：9月17日(水)13:00～

10. その他

永井幹事より

①日野プロバスクラブよりの依頼があります。お手元のチラシ、9月3日視覚障害者のバンドで「正秋バンド」による東日本復興支援チャリティコンサートが開催されます。本日受付にて福祉協力券を販売いたしますので是非お買い上げください。

②先月山形忠顕会員紹介の「永田弦二郎」の本とCDご希望の方は山形会員に申し出てお借りし

て下さい。

11. 卓話

「遣唐使と仏教伝来」

熊田真瑜美



仏教伝来は538年飛鳥から始まった。釈迦誕生の後インド仏教は、中国西域(波斯国)でバラモン教とゾロアスター教(中国で火祿教～大雲教)と仏教の三宗教が混ざり、その後達磨大師の「禅」を含んで中国仏教に姿を変えた。その役割の重要な部分に西域の胡人(ペルシヤ人)の存在があった。胡人～遣唐使を通じ東アジアの古楽器ガラス、陶器、薬草、又仏具に使用する七宝と言われる金、銀、瑠璃、めのう、サンゴ、琥珀、水晶が日本に伝わって来た。遣唐使は前後20回の予定が実際には16回しか出発出来ず、20回目の大使「菅原道真」は唐国内が内乱で不安定であったため中止の意見を出し、その後再開はない。第9回目に阿部仲麻呂、吉備真備、玄昉が出発。当時、長安(現西安)には胡人約1万人が住み商業文化を営んでいたが、シルクロードで隊商を組みながら大麻、阿片、薬草を扱い調合をする事で火祿教を支える役割をしていた。火祿教を象徴する炎の中へ樹脂で固めた大麻を削り燃やし、ハオマ酒(パキスタン原産の「麻黄」と羊の乳で作るにがり酒)を飲ます事で幻覚・幻視を起こさせ胡人の得意とする雑技、手品を用いて意識の高揚をさせた。遣唐使船での留学僧等が胡人との関りの中で火祿教の炎と使用する薬種に目を向け、則天武后もこれらを用いて仏教の拡大を図った。留学僧は帰国後日本の朝廷に入り仏教を拡大しながら自分の地位向上をねらった。則天武后も街で薬種の調合のうまい男に出あい宮廷の中へ偽僧として入れ調合薬の魅力で情を通じたとある。街なかとは、長安のごく普通の家構えの中の火祿教の堂への訪問は、マニ教、大雲教へのながれで不自然ではない。彼らは仏教の偽僧として宮廷内に入り、名の知れた僧と共にお堂を作り、国家統一の手段にした。大雲教の寺院を仏教寺院にまでしたのは仏教崇拝より単に麻薬調合のうまい男を皇后の相手と欲しただけで、次にそ

れ以上の男が出た為、薬売りは女官達に内情を知りすぎたと撲殺された。武后は病弱な高宗の代わりに政務を代行、恐怖政治へと移行した。これを見た玄昉は帰国時、胡人を連れ帰り雑技、手品を使って朝廷の関心を得、持ち帰った薬草、特に大麻草、阿片をうまく調合することで効果を認めさせた。聖武天皇の母（宮子）が聖武天皇を生んだ後の産後の肥立ちの悪さで38年間の精神的病に罹った。この病を治す依頼を受けた玄昉は、日本国自生の効き目が弱い大麻草を睡眠薬として調合使用、覚醒後、精力剤、活力剤、淫剤等を含む金丹を与え自らの身体を使い治療回復としたが、「宮子」のみでなく相手を光明皇后そして娘の皇太子（後の孝謙天皇）にまで情を通じ自分の勢力を伸ばしていった。彼は何故か中国西域産の鉱石を使い水銀を小粒の丸薬に仕込んで聖武天皇にも飲ませて居た疑いがある。病弱な聖武天皇が都に戻らず転々としたことなどにも薬の影響を疑われ、玄昉の連れてきた胡人が朝鮮の大使の船で日本脱出をした際に大使に水銀の使用を指摘されている。宮廷内部事情に通じ過ぎ傲慢になった玄昉は降格左遷され、九州観世音寺の落慶法要時に殺され首は数日後興福寺境内に落ちていたという。日本の国分寺を全国に広く建立したのは「則天武后」が大雲寺を国家統一に利用した事が手本になったという。第16回目の遣唐使船で最澄、空海が入唐している。最澄は2カ月余で帰国。空海は約2年の留学をし、曼荼羅絵を持ちかえり帰国した。正倉院にすでにほとんどの経典が入っていたのを「古密教」、曼荼羅絵が入ってきた空海の時から「新密教」と区別され、「新密教」は後に鎌倉仏教に大きな影響を与えた。

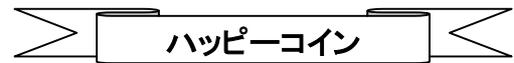
12. プロバスソング斉唱

13. 閉会のご挨拶 吉田副会長

佐々木年度がスタートして1カ月たちました。会長方針に基づいた各委員会の活動も軌道に乗り、これからの1年が楽しみです。また宇宙の学校について佐々木会長と下山会員からお話がありました。この度、宇宙の学校が地域奉仕活動の柱に加わります。子供達への奉仕活動を通じてわれわれ自身が得る事があり、やりがいを感じられるものと思います。

出来るだけ多くの会員の皆様にこの活動の目的をご理解の上ご支援いただき宇宙の学校を成功させたいものと思います。

以上お願いをして閉会のご挨拶といたします。



◆先日15年間の人権擁護委員を退任しました。会員の皆様には各種行事等へのご参加ご協力大変有難うございました。退任にあたり江田法務大臣、黒須八王子市長様より、それぞれ感謝状を戴きました。 廣瀬智子

◆ハートフルシンフォニー「心と心をつなぐコンサート」にはクラブからたくさんお出で頂きました。おかげ様で心をつなぐよいコンサートになり有難うございました。義捐金もたくさん頂戴いたしました。新学期には楽器を持って被災地へ届けに行きます。 立川富美代

◆7月28日の「シリア・ヨルダン歴史の旅」会場満席お礼申し上げます。 荒 正勝

◆①8月7日81才誕生日、よく生きのびたもんだ。②先週孫が1ヶ月のホームステイから無事帰国。よって2コイン。 山下安雄

◆おかげさまで今年も健康で誕生日を迎えることが出来ました。生かされていることに感謝。 大高秀夫

◆75回の誕生日を8月17日に迎える事が出来ました。本年もより一層頑張ります。 宮崎浩平

◆後期高齢者というありがたい命名をいただいてからまたたくまに1年経過しての誕生月です。“おかげさま”にて体調を維持しています。

佐々木 正

◆8/6・7の2日間港区を自転車で回りました。熱中症にもならず生きています。 増田由明

◆息子2人、娘2人がいる。今日長女に2人目の孫が生まれる。私も5人の孫にじじとよばれる。ハッピーであるためコイン2枚奉納。 荻島靖久

◆アメリカから娘と孫がやってきました。2年ぶりでした。 土井俊玄

◆先の台風の前日、戸隠古道の一部を散策してきました。少しの雨でしたが3時間の森林浴を楽しんできました。 高取和郎

◆長男の靱帯損傷の手術が無事に済み昨日退院

出来ました。 根本洋子

◆3月11日から5か月。被災地に沢山のハッピーがありますように！！ 飯田富美子

◆昨日444回目の献血をいたしました。これで長嶋さんのホームラン数と並びました。 野口浩平

◆6月末のゴルフではベスグロで初優勝。7月の麻雀では半荘3回連続TOPで初優勝。なでしこJAPANは初の世界一。この先まだまだありそう。 寺田昌章

◆句会で「かなかなの庭に夕闇おきにけり」が高句句に。頭の体操としてこれからも楽しみたい。プロバスクラブにも是非俳句のお仲間を作りたい。 河合和郎

◆ハッピーな出来事2つ。

①3.11 東日本大震災で不明になった教え子（57才、気仙沼市立中学校教員）の消息が8月1日判明しました。「町内全部被災。電気ストップ40日。水道ストップ3か月。電話今なおストップですが、頑張っています。学生時代先生に教わったとおり子供たちを指導しています。」との元気な声に胸が熱くなりました。

②7月30、31の両日、初台の新国立劇場で仙台オペラ協会主催オペラ「鳴砂（なりすな）」が上演されました。台本づくりから作曲、上演まで総て仙台市民の“手作りオペラ”で、新国の今年度最優秀賞地域招聘公演として実現したものです。芸術監督、主演を務めて頑張ったのは親しい我が後輩で感激一入でした。東北の人は強い！彼らに肖って「分を守り、分を尽くすべし」との思いを新たにしました。 山形忠顕

◆今日は暑いな～と云いながらも会に出席出来ることを感謝、感謝。 近藤泰雲

◆残暑お見舞い申し上げます。 古川純香

◆次代を担う子供達に科学へ目を向けさせる「宇宙の学校」推進にとり組んでおられる会員各位に敬意を表します。 土井俊雄

◆プラスワン・プロジェクトチームは今年10月の「宇宙の学校」開校を決め、ひとたびこの役割を終了しました。今後の発展を祈り、チームの解散式の剰余金をハッピーコインとして申告します。 プラスワンプロジェクトメンバー一同

◆「宇宙の学校」いよいよ募集開始になります。

成功を期して！

下山邦夫

◆「宇宙の学校」が計画の段階から準備の段階へと一歩前進に踏み出したことに対して。 吉田信夫

◆八王子「宇宙の学校」がいよいよスタートします。将来の日本を背負って立つ子供たちの健全育成にわがクラブも設立の趣旨に添って協力していきましょう。 佐々木研吾



ポリペクトミー(ポリープ切除術)の経験

寺田 昌章



昔消化器内視鏡の開発者として、色々な内視鏡の開発や内視鏡手術方法の開発をしてきたが、今回凶らずも40年位前に開発したポリープを切除する手術方法

のお世話になった。

内視鏡検査の経験は40歳を超えてから2年毎に行っているが、若いころは開発関係者仲間でジャンケンをして負けた者が試作品の実験台になっていたが、私は一度も負けなかったし、当時の検査は決して楽ではなく、開発者は内視鏡を飲むと大胆な設計ができなくなるので、飲むべきではないなどとうそぶいていた。

胃等の上部消化器内視鏡では検査前にガスコンドロップというゼリー状の麻酔薬を、喉の奥にためておいてくださいと言われる。しかし大多数の人は喉の奥ではなく舌にためておくので喉の麻酔は効かず内視鏡を飲むのに苦しくなる。しかもジャンケンで負けた人は御褒美として特上のお寿司を御馳走になれるが、舌がしびれておいしい食事ができず残念がっていた。

今検査は内視鏡の進歩で楽になったが、さらに検査を楽に受けられる秘訣の一つは、ガスコンドロップを喉の奥にためる際、少しずつ喉の右側、真ん中、左側に分けて飲むことが重要です。こうするとうまく喉に麻酔が効きます。

さて昨今は2～3年ごとに上部、下部の検査を受けていたが、大腸に1.5cm位のポリープが見つ

かった。茎はなくなだらかに隆起したポリープで一見した感じでは悪性ではなさそうだが、急に大きくなったことと今後のことを考えたらポリペクトミーの方が良いと言われた。

私は以前不整脈が出て血液がサラサラになる薬（ワーファリン等）を飲んでいたので、効き目が長続きするワーファリンをやめて、代わりに効き目が長続きしないが血液を固まりにくくするヘパリン薬を、5日間点滴し続けなければならず入院することになった。一日中点滴に繋がれている以外することもなく、読書とTV鑑賞に明け暮れていた。ヘパリンは5日間で終わったが点滴はポリペクトミー終了後2日間（出血が無いことが確認されるまで）で計7日間点滴から開放されなかった。

ポリペクトミーはいつもの名医のところではなかったので、ちゃんと目的のところへ到達できるか、穿孔を起こしはしないかと心配したが、実に見事に短時間で終了した。なだらかな隆起ポリープの周辺に生理食塩水を注入してなだらかな隆起を茎のあるポリープのようにして、スネアーという輪投げのようなものでポリープを囲い込みそのままひき絞り電気メスを通電して切除、その後切除後にできた穴をクリップ数個で閉じて終了。昔苦勞をした各種の道具が進歩して、いとも簡単に出来たことに感嘆した。

大腸癌は日本人の中でも高い発生・死亡率になっています。大腸癌に限らず癌は早期に発見できれば全く心配ありませんので内視鏡検査は定期的に行いましょう。

善意は国境を越える

岩島 寛



昨年の4月、可愛い孫娘の顔を見にドイツに行った時のことである。ミュンヘンから日帰りでもオーストリアのインスブルックへ娘婿の運転でドライブした時にデジカメや携帯電話などの入ったバッグを

どこかに置き忘れ、その晩帰宅して気が付いた。多分、インスブルックであろうと娘婿は早速警察へ電話をしてくれたが、それらしき届け物はない

という。置き忘れた原因は、インスブルックでの写真は一眼レフでパチパチ撮っていたので、デジカメは忘れられた存在であった。それに、景色の美しさに我を忘れていたのであろう。滞在中はひよっとして届出の知らせがあるかと期待もしたが、無かった。帰国して6ヶ月が過ぎ、すっかり諦めていた矢先に、娘からのメールで、忘れ物が見つかったと言う。その経緯はこうである。

ミュンヘンにお住まいの80代の老夫婦がやはりインスブルックにドライブをする途中、ドイツとオーストリアとの国境近くの観光スポットで我々の落し物を見つけ、直ぐにミュンヘン警察に届けたが、6ヶ月経っても落とし主が現れず、落し物は老夫婦のものになるとのことで、戻ってきたという。しかし、彼らは「なんとしても、落とし主に届けたい。とても使う気になれない。」と、友人の眼鏡屋さんに相談したところ、眼鏡屋さんはデジカメを開き、私たちがドイツでドライブした時に撮った沢山の写真の中から、ドライブに使った娘婿の車の窓ガラスに娘婿が勤務している会社の名前が貼ってあるのを見つけたのである。（ドイツの企業は従業員に交通費として車を貸与し、ガソリン代も負担する制度がある。）そこで、老夫婦は早速会社に電話をして、娘婿の車であることが判明したと言う訳である。娘たちは早速お礼の品を持って、落し物を戴きにミュンヘンの老夫婦宅を訪ねた。私たちが直ぐにお礼の手紙をたどたどしいドイツ語で書いて送った。それを見た老夫婦はとても嬉しかったと娘婿に電話をしてきたという。

この世知辛い世の中にあって、なんと心温まる嬉しい出来事であろう。善意は国境を越える。

編集後記：今日9月29日のコンサートで歌う「家路」を練習してきました。

会報発行日9月8日は作曲家ドボルザークの誕生日です。彼がニューヨークの音楽院長に招かれそこで接した黒人音楽に刺激を受け交響曲「新世界より」を作曲したといわれています。その第2楽章冒頭のメロディーが「家路」です。

この曲の練習に心なやませて家路を辿りました。（H. Y）